

一倉地域まちづくりプラン

第2期（令和4年度～令和8年度）



一倉地域まちづくり協議会

一倉地域まちづくりプラン

令和4年3月 発行

一倉地域まちづくり協議会

〒891-0204

鹿児島市喜入一倉町5334-1

TEL 099-345-2000

FAX 099-203-0009

目 次

I	プラン策定について		
	1 プラン策定の趣旨	1	1
	2 第1期の成果と課題	1	1
	3 計画の期間	1	1
II	一倉校区の概要		
	1 一倉校区の概要	2	2
	2 一倉校区の施設・文化財等	3	3
III	一倉校区の現状と課題		
	1 まちづくり部会	5	5
	2 体育文化部会	6	6
IV	まちづくりの目標		
	1 目標（スローガン）	10	10
	2 運営方針	10	10
	3 活動の体系図	11	11
V	事業計画	12	12
VI	資料	16	16

1 プラン策定の経過

令和2年度

月	日	曜	会 議 名 等	内 容 等
11	8	日	第1回プラン策定委員会	・プランの内容・策定スケジュールの決定 ・住民からの意見聴取方法の検討（部会員のみ）
12	16	水	アンケート作成	
1	18 ～ 24	月 ～ 日	アンケート配布（部会員）	・実施・集計
2	18 ・ 19	水 ・ 木	各部会	(1) 第1期プランの反省・まとめ ・事業の成果と課題 ・組織、協議会運営等
3	21	日	第2回プラン策定委員会	(1) 第1期プランの反省・まとめ ・事業の成果と課題 ・組織、協議会運営等

令和3年度

4	25	日	定期総会	・令和3年度プラン策定計画の承認
6	13	日	第1回プラン策定委員会	・校区の概要（案）の決定 ・まちづくりの目標（案）の決定
8	22	日	第2回プラン策定委員会	・校区の現状と課題（案）の作成
10	14 ・ 15	木 ・ 金	各部会	・校区の現状と課題(案)の検討 ・事業計画の作成 ・事業名、事業の内容の検討
10	17	日	第3回プラン策定委員会	・事業計画の決定
12	12	日	第4回プラン策定委員会	・地域コミュニティプラン最終案の検討
2	13	日	第5回プラン策定委員会	・地域コミュニティプラン最終案の決定 ・校正・印刷所の決定

2 プラン策定委員会委員

委員長	弓指 優	まちづくり協議会 会長
副委員長	黒木 俊典	同副会長
委員	馬場 正樹	まちづくり部会 部会長
	小田 康弘	同副部会長
	横井 學	同副部会長
	松田 義行	体育文化部会 部会長
	北園 利広	同副部会長
	小田 林	同副部会長
	北園 清子	まちづくり協議会 会計
	中武 宏子	事務局職員
	弓指 政治	社会体育部会 部会長（令和2年度）
	桑代 義弘	まちづくり部会 副部会長（令和2年度）

I プラン策定について

1 プラン策定の趣旨

全国的に少子高齢化等の影響で地域社会を取り巻く生活環境が大きく変化し住民間の連帯意識の希薄化も見られ、特に、福祉・安全などの分野での自助・共助の再構築が求められている。

そのような状況の中で、地域住民同士がお互いに協力し、支え合う環境づくりの観点から一倉地域の将来像を描きながら第1期のコミュニティプランを策定し、各団体との連携を図りながら課題解決に向けて取り組んできた。

今回、第1期の成果を活かしながら、新たに明確になった地域の課題を解決するために第2期コミュニティプランを策定することにした。

2 第1期の成果と課題

(1)成果

- ・ まちづくり目標の達成に向けて、住民一人ひとりの関心が高まり、連帯意識を持って各事業に取り組もうとする姿がみられるようになってきている。
- ・ まちづくり協議会の事業の内容等がよく分かるようになり、事業に参加したいと考えるようになった人が増えている。
- ・ 関係機関（特に行政）との連携が深まり、見通しをもって事業の推進ができるようになった。

(2)課題

- ・ 住民からの要望が強い福祉、安全、防災対策については、定期的の実態把握に努め、自助・共助・公助を含め、できることから取り組む必要がある。
- ・ 第1期中に、組織の改編と事業の見直しを行ったが今後も、地域の実態に即しの感染症等への迅速かつ適正な対応ができるように関係機関との連携強化に努め、対策を検討・模索する必要がある。

3 計画の期間 令和4年度 ～ 令和8年度

Ⅱ 一倉校区の概要

1 一倉校区の概要

一倉校区は、鹿児島市役所喜入支所から西に約4km離れた海拔約100mから250mの山あいの地域にあり、一倉・弓指・小田代の3集落からなっている。面積は約8.4km²、世帯数は約200世帯、人口は約350人で、喜入地域全体に対する人口比率は約3%である。

一倉・弓指地域では、山あいを開けた田畑に、米・かぼちゃ・オクラ・ネギ・ダイコン・みかんと健康食品用の桑などの作物が栽培されている。また、小田代地域では、高地の気候を利用して茶の栽培が盛んであり、さつまいもや観賞用のニオイヒバが栽培されている。

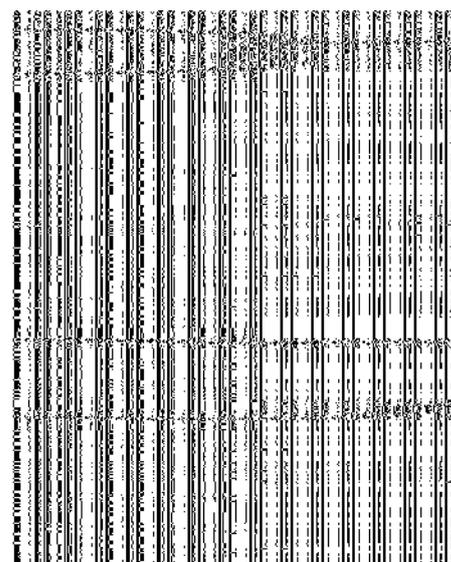
校区内には、一倉工業団地ができ、また、平成24年11月には鹿児島市観光農業公園（グリーンファーム）がオープンしたが、近年少子高齢化が顕著で、農家の担い手不足もあり、田畑や山林の荒廃が進み鳥獣被害対策が求められる状況になってきている。

校区の人口(年齢構成) 令和4・1・1現在

0～9歳	7人	60～69歳	93人
10～19歳	18人	70～79歳	80人
20～29歳	17人	80～89歳	32人
30～39歳	26人	90～99歳	19人
40～49歳	25人		
50～59歳	29人	(人口)	346人

校区の伝統行事等

- ・一倉鎌踊り
- ・しめ縄作り
- ・六月灯
- ・豊年祭



校区の施設

- ・一倉校区公民館
- ・一倉小学校
- ・一倉自治公民館
- ・弓指自治公民館
- ・小田代集落公民館
- ・河鹿公園かじか
- ・一倉簡易郵便局
- ・グリーンファーム
- ・弓指の山ノ神社

校区の農業

- ・水田面積 32.3ha
- ・畑地面積 67.6ha
- ・樹園地 1.8ha
- ・専従農家 5戸
- ・兼業農家 15戸

(鹿児島市役所調べ)

校区の団体等

- ・校区社会福祉協議会
- ・一倉小学校PTA
- ・自主防災会
- ・一倉鎌踊り保存会
- ・鹿児島市消防団一倉分団
- ・一倉小学校OB会
- ・一倉ゆずり葉会
- ・一倉校区あいご会
- ・衛生組織連合会

校区の文化財

- ・二重橋ふたえ(石橋)
- ・製鉄炉跡
- ・オロ跡
- ・鬼ヶ久保遺跡
- ・小田代の供養塚
- ・小田代の馬頭観音
- ・小田代の山の神

2 一倉校区の施設・文化財等



一倉校区公民館



一倉小学校



弓指自治公民館



一倉自治公民館



小田代集落公民館



グリーンファーム



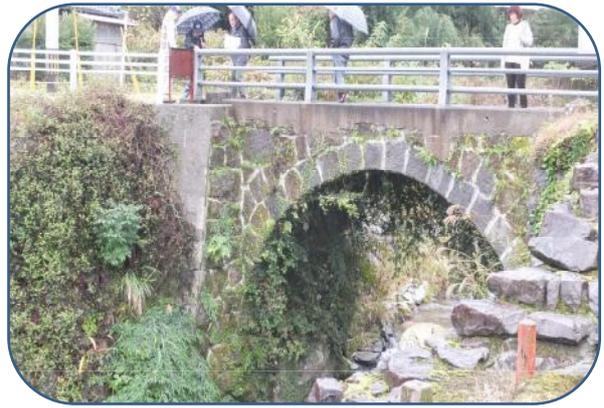
鹿児島市消防団一倉分団



一倉簡易郵便局



山ノ神社



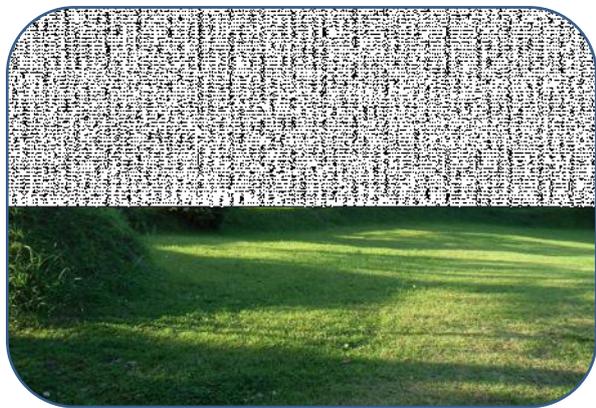
二重橋（石橋）



鬼ヶ久保遺跡



製鉄炉跡



才口跡



小田代の馬頭観音



小田代の供養塚



河鹿公園

Ⅲ 一倉校区の現状と課題

1 まちづくり部会

■ 現 状

- (1) 自然環境に恵まれ、おおらかで明るい性格の住民が多く、住民同士の間人間関係もおおむね良好である。
- (2) まちづくり部会の事業（一斉清掃作業、校区公民館まつり、敬老祝賀会等）に対する関心は高く、多くの住民が参加し交流を深めている。
- (3) 少子高齢化が顕著であるが、一倉校区社会福祉協議会等との連携を深め、年間を通して小、中学生登下校時の見守り活動や高齢者・障がい者等への声かけや見守り活動を行っている。
- (4) 校区内危険箇所点検を定期的実施し、可能な限り住民の手で改善し、不可能な案件については関係機関（特に自治体）に文書等で要望し、改善に努めている。
- (5) 校各自治会・集落では、自主防災会が関係機関と連携しながら定期的に防災訓練を実施し、防災意識を高めている。

■ 課 題

- (1) すべての事業において、できるだけ多くの住民が参加することで住民同士が交流を深め、楽しい時間を共有することで、地域を愛し、地域に誇りを持てるように事業内容を工夫・立案する必要がある。
- (2) 長期的視野に立って、予測不可能な想定外の事態等が発生した際の各事業の中止・縮小を含めた対応も検討していく必要がある。
- (3) 高齢者・障がい者等への声かけ・見守り活動については、校区社会福祉協議会・民生委員児童委員・ともしびグループ等との連携をより一層深めるとともに、今後は若い人材の育成を図りながら活動を充実していく必要がある。
- (4) 防災訓練や危険箇所点検等では、想定外の災害等も考慮しながら活動内容の工夫・改善を図る必要がある。

2 体育文化部会

■ 現 状

- (1) 少子化の影響で子どもの数は少ないが、地域住民の小学校に対する愛着は強く、子どもたちに声をかけ見守るなど、地域ぐるみで子どもを育てる気風がある。
- (2) 体育的事業への関心は高く、多くの住民が「校区・小学校合同運動会」や校区スポ・レク大会に参加し、楽しみながら交流を深めている。
- (3) 「一倉鎌踊り」の保存・継承については、踊り手となる小・中学生の数が極端に減少し、指導者の確保も困難な状況の中で、ぎりぎりの状態で活動している。
- (4) 「ご馳走でおもてなし」については、年々内容が充実し、参加者も楽しく活動している。

■ 課 題

- (1) 生涯学習の観点から、幼児から高齢者まで幅広く多くの住民が参加し、楽しく学び、楽しく活動できるよう事業内容を工夫改善することが求められる。
- (2) これまでも「校区・小学校合同運動会」や「校区スポ・レク大会」のプログラムや内容を見直してきたが、今後も地域社会の状況に応じてだれもが楽しく参加できる活動内容等への検討・見直しを進める必要がある。
- (3) 伝統芸能の継承の「一倉鎌踊り」については、小・中学生の減少から存続が危ぶまれており、引き続き検討する必要がある。
- (4) 六月灯まつり・豊年まつり・しめ縄づくり等の伝統芸能の継承については、担い手となる若者の確保や継承することへの雰囲気づくりが求められている。



子供の日



子供の日お祝い品贈呈



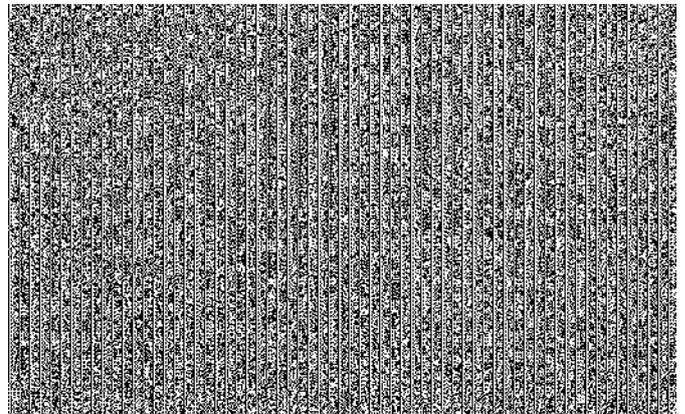
危険箇所点検



ご馳走でおもてなし



ご馳走でおもてなし



敬老祝賀会（演芸）



敬老祝賀会（小学生）



敬老祝賀会（演芸）



小学校・校区合同運動会



小学校・校区合同運動会（だれやめ）



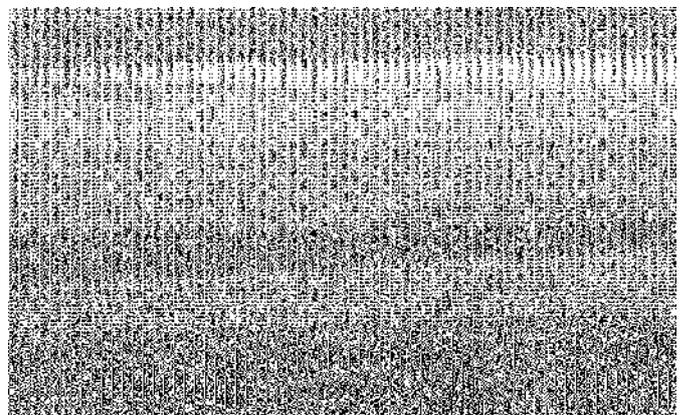
一倉鎌踊り



小学校・校区合同運動会



六月灯（弓指）



六月灯（一倉）



学校教育支援（田植え）



学校教育支援（田植え）



学校教育支援（脱穀）



学校教育支援（脱穀）



校区公民館まつり（餅つき）



校区公民館まつり（餅つき）



校区公民館まつり（展示品）



校区公民館まつり（即売会）



校区グラウンドゴルフ大会



校区グラウンドゴルフ大会

Ⅳ まちづくりの目標

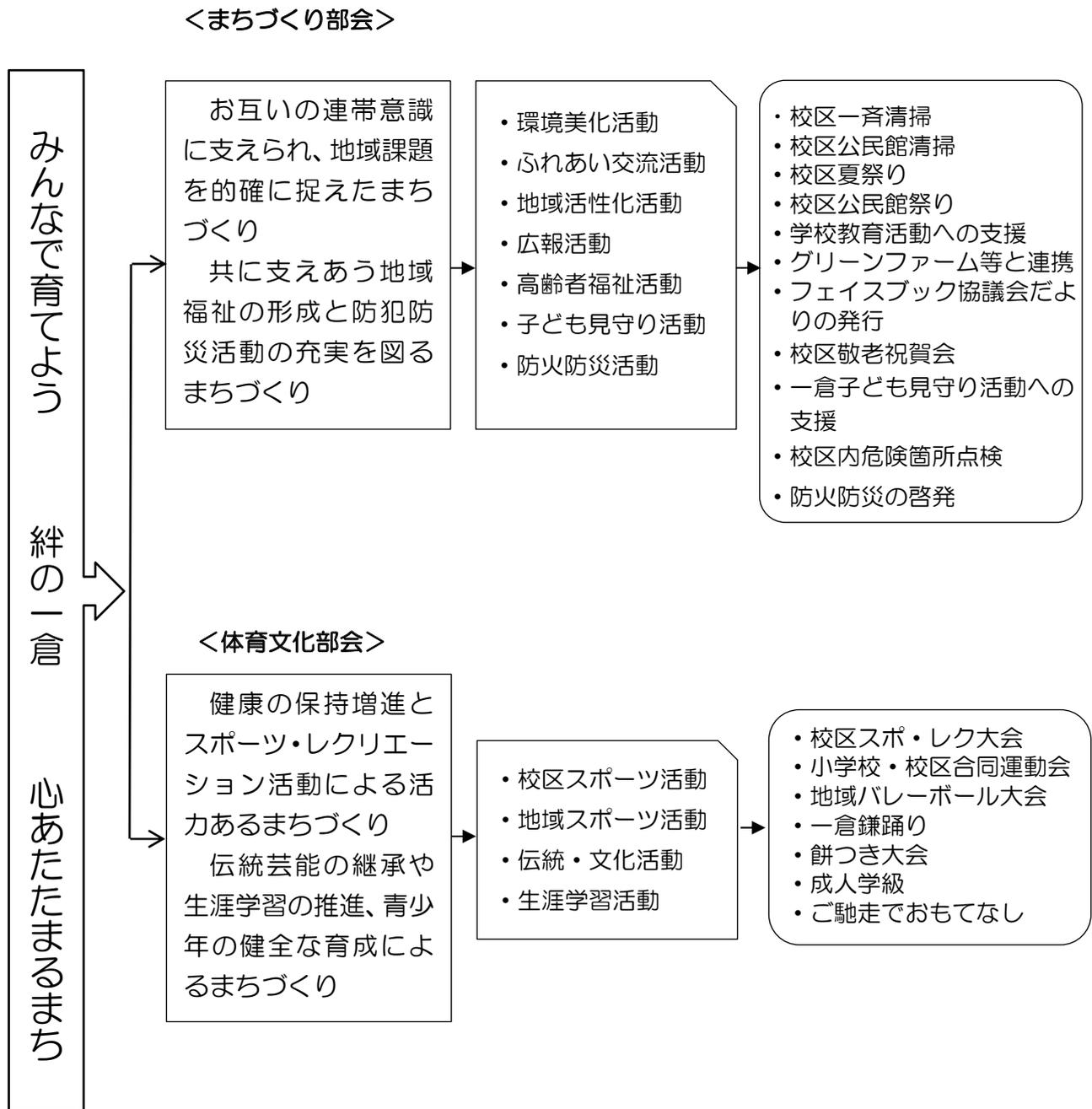
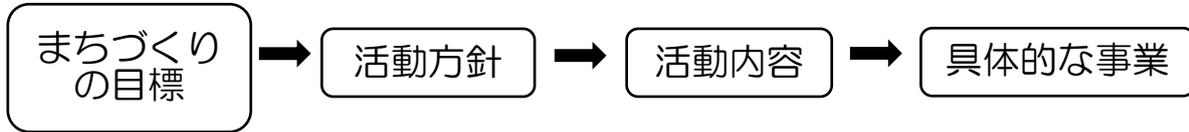
1 目標（スローガン）

みんなで育てよう 絆の一倉 心あたたまるまち

2 運営方針

- (1) 地域住民一人ひとりが、強い絆のもと連帯意識を持って地域の活性化と生活環境の改善に努め、地域住民が主体となる「心あたたまるまち」づくりを推進する。
- (2) 子どもから高齢者まで住民一人ひとりが、夢や希望を持ち、共に支え合い楽しく生活できるまちづくりを推進する。
- (3) みんなで創るまちづくりを基本に、部会の主体的・積極的な活動を推進する。
- (4) 各種構成団体との連携強化を図り、効率的な事業推進に努める。
- (5) 地域住民の声を大切にしながら自助・共助による「心あたたまるまち」の実現を目指すとともに、関係機関との連携（公助）による活動の充実を図る。
- (6) 地域住民への情報発信に努め、「一人ひとりが できる時に できること」をモットーに、全住民参加型の協議会運営に努める。

3 活動の体系図



V 事業計画

番号	活動方針	活動内容	事業名	実施部会	事業内容
1	<p>お互いの 連帯意識に 支えられ、地 域課題を的 確に捉えた まちづくり 共に支え あう地域福 祉の形成と 防犯防災活 動の充実を 図るまちづ くり</p>	環境美化活動	校区一斉清掃	まちづく り部会	市全体で取り組む美化活動の「ク リーンシティかごしま」や年末の一 斉清掃に集落単位で取り組み、生活 環境の美化を図る。
2			校区公民館清掃	まちづく り部会	小学校の美化作業と同時に実施す る。各集落より数名参加して、校区 公民館敷地内の草払いや植木の剪定 などの美化作業に取り組む。
3		ふれあい交流 活動	校区夏祭り	まちづく り部会	集落の六月灯と兼ねて夏祭りを開 催し、灯籠を眺めながら、子どもた ちによる歌や舞台発表などを楽し む。
4			校区公民館祭り	まちづく り部会	日頃丹精込めて栽培した野菜や柑 橘類の農産物の展示・品評会や卵の つかみ取りを実施する。また、生涯 学習の学習成果を展示する。
5			学校教育活動へ の支援	まちづく り部会	全校区民による学校美化作業と小 学校 OB 会による美化作業、米作り の体験活動に積極的に協力すること により児童とふれあうなど学校との 連携を深める。
6		地域活性化 活動	グリーンファーム等と連携	まちづく り部会	グリーンファーム等と連携し新た な取組を研究する。
7		広報活動	フェイスブック 協議会だよりの 発行	まちづく り部会	校区内外へ情報発信の手段とし て、フェイスブックを活用し、協議 会だよりを定期的に発行する。
8		高齢者福祉 活動	校区敬老祝賀会	まちづく り部会	敬老の日を迎えられた高齢者の長 寿をお祝いし、これまでのまちづく りへの貢献に敬意を表する集いを開 催する。
9		子ども見守り 活動	一倉子ども見守 り活動への支援	まちづく り部会	子どもたちの安全確保のため、登 校時や授業終了から下校までの時間 帯に、子どもたちとのふれあいや見 守り活動を支援する。

事業効果	事業スケジュール（年度）					新規/ 継続	連携先等
	4	5	6	7	8		
校区一斉清掃の実施により、生活環境の美化が推進されるとともに、住民どうしのふれあいの場となり連帯意識が高まる。	○	○	○	○	○	継続	
校区公民館清掃の実施により、まちづくりの拠点である公民館の環境が整い、住民は快適な環境のもと、公民館を利用できる。	○	○	○	○	○	継続	
校区夏祭りの開催により、ふれあいや絆が深まる中、子どもや高齢者を大切にする気風が高まり、活力あるまちづくりが推進される。	○	○	○	○	○	継続	
品評会等の実施により、栽培への意欲が高まり、栽培家庭の増加へつながる。また、学習成果の発表は、住民の学習活動を活発化する。	○	○	○	○	○	継続	(餅つき大会と同時開催) ・体育文化部会 ・J Aいぶすき
学校美化作業や米作りの体験活動に協力することにより、学校との連携が深まり、児童に食生活を支える農家の努力と食材への感謝の心が育つことが期待される。	○	○	○	○	○	新規	
新たな取組を研究することで一倉地域の活性化につながる。	○	○	○	○	○	継続	・グリーンファーム
情報発信により、まちづくり協議会活動への理解が深まり、校区外からの行事参加者が増え、児童増につながることを期待される。	○	○	○	○	○	継続	
まちづくりに貢献された高齢者に感謝の気持ちを伝えるとともに、参加者がこれからのまちづくりへの思いを共有する機会ともなる。	○	○	○	○	○	継続	・一倉小学校
見守り活動の支援により、保護者の負担が軽減され、子どもたちを住民みんなで見守り育てていくという活動に発展していくことが期待できる。	○	○	○	○	○	継続	・一倉子ども見守り隊 ・スクールガード ・一倉小学校

番号	活動方針	活動内容	事業名	実施部会	事業内容
10		防火防災活動	校区内危険箇所点検	まちづくり部会	安心安全ネットワーク会議などと合同で校区内の危険箇所点検を実施し、点検後に危険表示の看板を設置し行政へ改善要望書を提出する。
11			防火防災の啓発	まちづくり部会	一倉分団や喜入分遣隊による火災、災害を想定した実演や啓発活動を実施する。
12	健康の保持増進とスポーツ・レクリエーション活動による活力あるまちづくり 伝統芸能の継承や生涯学習の推進、青少年の健全な育成によるまちづくり	校区スポーツ活動	校区スポ・レク大会	体育文化部会	校区内の子どもから大人までの多数が参加できるスポ・レク大会を開催し、グラウンドゴルフなどのスポーツやレクリエーションを楽しむ。
13			小学校・校区合同運動会	体育文化部会	小学校の児童が少ないことを受け、住民の参加で子どもを中心に競技種目の内容を見直し、集落対抗からレクリエーション的内容に変更することで、多くの住民が参加し、楽しみながら交流を深める。
14		地域スポーツ活動	地域バレーボール大会	体育文化部会	青壮年を中心に参加し、日頃の練習の成果を発揮するとともに、地域住民との親睦を深める。
15		伝統・文化活動	一倉鎌踊り	体育文化部会	小中学生を中心とした踊り手が、一倉鎌踊り保存会をはじめとする住民の支援のもと練習に取り組み、小学校・校区合同運動会等で、練習成果を発表する。
16			餅つき大会	体育文化部会	小学生が高齢者と協力して栽培・収穫した餅米を使い、和気あいあいとした雰囲気の中、餅つきをする。餅つきは、昔ながらの蒸籠(せいろ)、釜戸を使って蒸し、臼・杵でつく。
17		生涯学習活動	成人学級	体育文化部会	校区の方々が社会生活に必要な教養や能力を身に付け、日常生活に活かせるような講座等を年間を通して実施する。なお、受講者の関心等を考慮した講座内容の充実を図る。
18			ご馳走でおもてなし	体育文化部会	校区の男性が、メイン料理からデザートまで指導者のもと分担して調理し、家族や日頃お世話になっている方々に振る舞いおもてなしをする。

事業効果	事業スケジュール（年度）					新規/ 継続	連携先等
	4	5	6	7	8		
点検の実施により、校区の危険箇所を把握でき、危険箇所への看板設置により、住民は危険回避の行動をとることができる。また、要望書の提出により行政と危険箇所を共有できる。	○	○	○	○	○	継続	・一倉分団 ・交通安全協会 ・一倉小学校
住民の防火防災意識の向上が図られ、火災の予防や災害発生時の適切な行動につながる。	○	○	○	○	○	継続	・一倉分団 ・喜入分遣隊 ・一倉小学校
初心者でも気軽に参加でき、競技に挑戦しながらスポーツやレクリエーションを楽しむとともに、子どもから大人までの異年齢の交流が図られる。	○	○	○	○	○	継続	・まちづくり部会
子どもから高齢者までだれでも参加できる競技を用意することで、楽しさを実感でき、心身ともに健康な体力づくりにつながる。	○	○	○	○	○	継続	・まちづくり部会 ・一倉小学校
日頃会えない人たちと汗を流すことで、親睦が深まり、お互いの健康を高め合える。	○	○	○	○	○	継続	・まちづくり部会
小中学生の健全育成と郷土愛を育むのにも役立つ。	○	○	○	○	○	継続	・まちづくり部会 ・一倉鎌踊り保存会 ・一倉小学校
昔から継承されてきた餅つきを、高齢者から子どもたちや保護者などの若い世代に伝授されるよい機会になる。校区の老若男女の交流の場となり、楽しみな行事の一つとなる。	○	○	○	○	○	継続	(校区公民館祭りと同時に開催) ・まちづくり部会 ・一倉小学校
成人学級での学習は、生きがいに役立つとともに、まちづくりにつながる。また、住民のコミュニケーションの場、憩いの場としての活用も期待できる。	○	○	○	○	○	継続	・まちづくり部会
男性が調理をすることで、男女共同参画社会の推進につながりともに、家族や校区の方々に日頃の感謝の気持ちを伝えるよい機会となる。	○	○	○	○	○	継続	

VI 資 料

1 プラン策定の経過

2 プラン策定委員会委員